

福島経済マンスリー

4月の県内経済は、一部で消費増税前の駆け込み需要による反動減がみられたが、生産活動が回復傾向を強めるなど、全体では持ち直しの動きが続いている。

1. 平成26年4月の県内経済

項目	コメント	景況判断	
		変化方向	水準
県内経済の景況	県内経済は、消費動向や住宅投資等に消費増税前の駆け込み需要による反動減が窺えるものの、生産活動が回復傾向を強めるなど、全体では持ち直しの動きが続いている。		
消費動向	大型小売店販売額は、消費増税前の駆け込み需要による反動減も窺え、百貨店、スーパーとも前年を下回ったことから、合計では2ヵ月ぶりで前年比で減少した。また、新車登録台数も、8ヵ月ぶりで前年を下回った。		
公共投資	公共工事前払保証取扱は、件数が3ヵ月ぶりで前年を上回ったものの、請負金額、保証金額がともに2ヵ月ぶりで前年を下回った。		
設備投資	民間・非居住用建築着工は、棟数が4ヵ月ぶり、床面積と工事費予定額が5ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。		
住宅投資	新設住宅着工戸数は合計で6ヵ月ぶりで前年を下回った。内訳をみると、分譲が4ヵ月ぶりで前年を上回ったものの、持家が2ヵ月連続、貸家が5ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。		
生産活動	鉱工業生産指数は、前月比が2ヵ月ぶりで増加し、前年比は7ヵ月連続で増加した。業種別の前月比をみると、17業種で増加し、2業種で減少した。		
雇用動向	有効求人倍率は、季節調整値が前月を上回り、原数値が前年を上回った。また、雇用保険受給者実人員は7ヵ月連続で前年を下回った。		

注：「変化方向」は前月と比較した現在における景況の変化方向（：改善、：不変、：悪化）、「水準」は現在における景況の水準をそれぞれ示す。「変化方向」は当月と前月における3ヵ月加重移動平均の前年同期比の比較、「水準」は当月の3ヵ月加重移動平均値と過去5年間の平均値の比較により、それぞれ判断している。ただし、「変化方向」が改善または悪化の場合でも、「水準」が変わらない場合もある。なお、公共投資および設備投資は6ヵ月加重移動平均値による判断、民間・非居住用建築着工および鉱工業生産指数は3月データ。

〈天気図（水準）の意味〉				
晴れ	晴れ一部曇り	曇り	曇り一部雨	雨
良 い			悪 い	

2. 県内経済動向の概要

(1) 前年同月比

(単位：%)

	項 目	前 年 同 月 比					
		25年11月	12 月	26年1月	2 月	3 月	4 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	1.6	1.5	1.7	△ 0.1	11.3	△ 2.4
	乗用車新車登録台数	12.3	25.7	26.8	22.3	19.1	△ 14.3
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	47.3	△ 22.2	341.2	△ 18.2	60.8	△ 40.9
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	38.0	187.2	17.4	193.7	△ 20.4	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	8.0	45.5	18.7	44.6	5.1	△ 19.0
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注1}	5.9	10.5	14.4	8.8	16.5	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注1}	0.17	0.14	0.11	0.12	0.16	0.05
	雇用保険受給者実人員	△ 6.5	△ 3.9	△ 11.0	△ 11.6	△ 10.8	△ 11.4

注1 原指数

(2) 前月比

(単位：%)

	項 目	前 月 比					
		25年11月	12 月	26年1月	2 月	3 月	4 月
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	1.0	27.5	△ 19.1	△ 12.1	28.4	△ 18.9
	乗用車新車登録台数	6.9	△ 11.7	26.4	7.4	54.6	△ 59.6
公共投資	公共工事前払保証取扱保証請負金額	14.5	△ 38.5	217.6	△ 75.6	373.1	△ 46.9
設備投資	建設着工工事費予定額（民間・非居住用）	△ 9.0	108.5	△ 48.3	48.3	△ 45.6	—
住宅投資	新設住宅着工戸数	15.3	5.6	△ 29.2	60.8	△ 26.2	△ 22.9
生産活動	鉱工業生産指数（総合） ^{注2}	2.7	2.5	4.9	△ 4.2	13.7	—
雇用動向	有効求人倍率（パート含む） ^{注2}	0.01	0.02	0.01	0.01	0.04	0.03
	雇用保険受給者実人員	△ 10.1	△ 1.3	△ 1.4	△ 5.4	0.8	△ 0.6

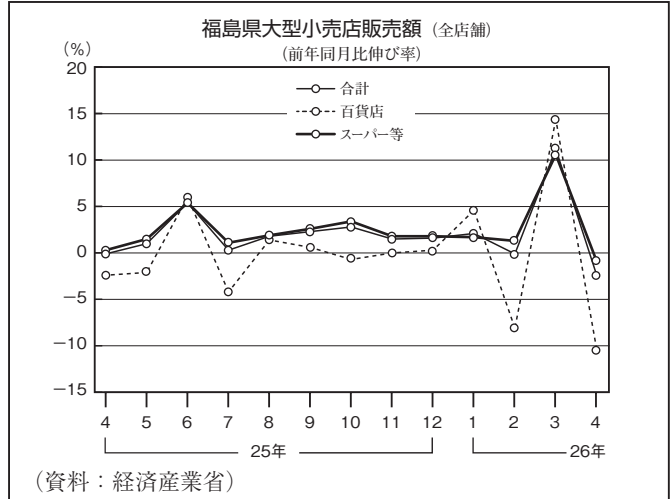
注2 季節調整値

3. 県内経済動向

消費動向

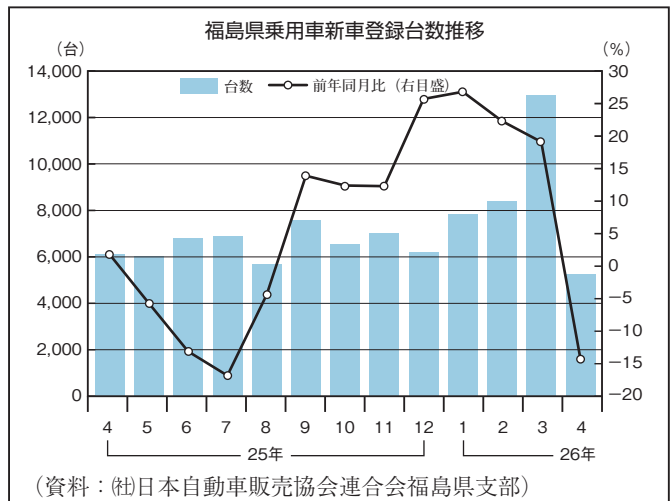
大型小売店：2ヵ月ぶりで前年比減

4月の県内大型小売店の販売額（全店舗ベース）は、合計で188億35百万円（前年同月比△2.4%）と2ヵ月ぶりで前年を下回った。業態別で見ると、百貨店は、衣料品、飲食料品とも前年を下回ったことなどから、合計では同△10.4%となった。また、スーパーは、飲食料品が前年を上回ったものの、衣料品などが前年を下回ったため、合計では同△0.9%となった。



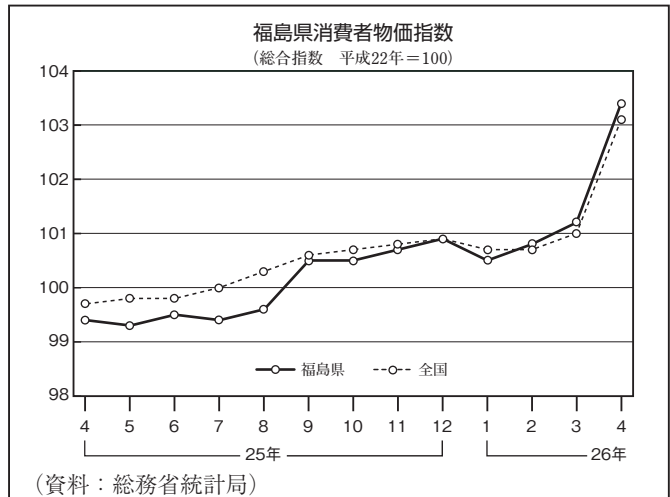
乗用車販売：8ヵ月ぶりで前年比減

4月の乗用車新車登録台数（ナンバーベース）は、合計で5,231台（前年同月比△14.3%）となり、8ヵ月ぶりで前年を下回った。車種別で見ると、普通車は1,319台（同△23.5%）、小型車は1,634台（同△16.7%）とともに8ヵ月ぶり、軽乗用車が2,278台（同△5.9%）と9ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。



消費者物価指数：前年比、前月比とも上昇

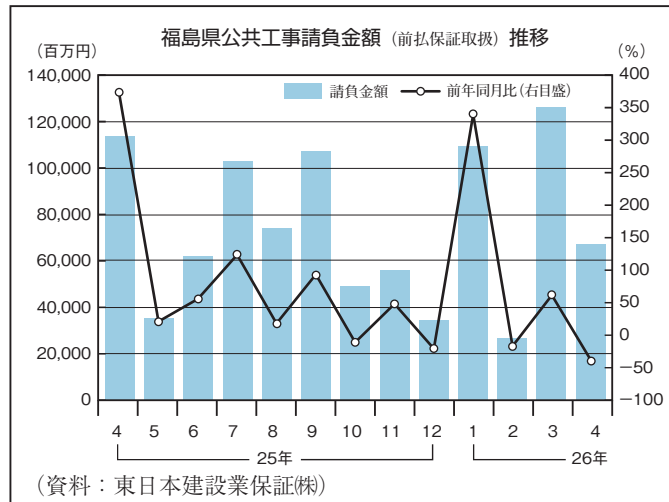
4月の消費者物価指数は、総合指数（福島市、平成22年=100）で見ると、103.4と前月比で+2.2%、前年同月比では+4.1%となった。費目別にみると、「被服及び履物」の103.9（前月比+5.2%）など、10費目すべてが前月比で上昇した。



公共投資

公共工事：請負額は2ヵ月ぶりで前年比減

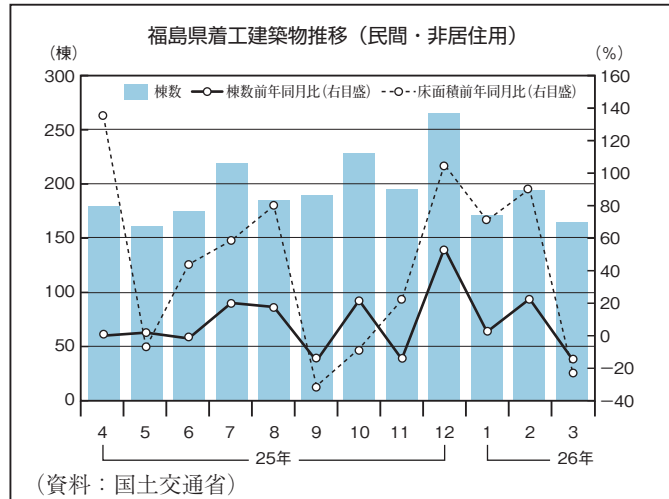
4月の公共工事前払保証取扱は、件数が405件（前年同月比+30.2%）と3ヵ月ぶりで前年を上回った。一方、請負金額は670億72百万円（同△40.9%）と2ヵ月ぶり、保証金額は297億99百万円（同△17.0%）と4ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。



設備投資

設備投資：工事費予定額が5ヵ月ぶりで前年比減

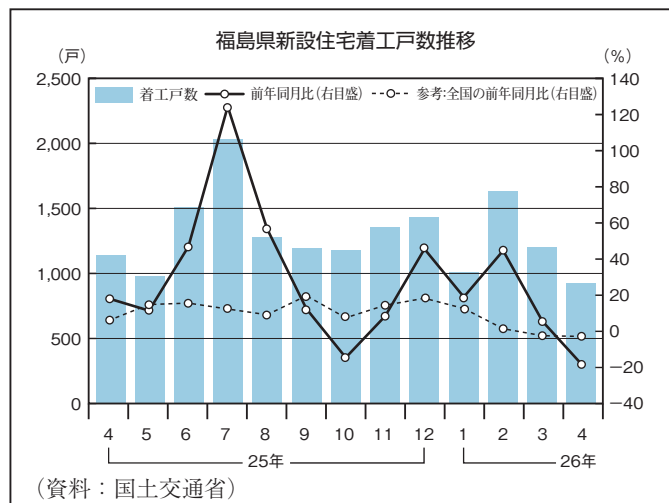
3月の建築着工（民間・非居住用）は、棟数が165棟（前年同月比△14.5%）と4ヵ月ぶり、工事費予定額が116億61百万円（同△20.4%）、床面積が64,054㎡（同△21.7%）と5ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。



住宅投資

住宅建設：6ヵ月ぶりで前年比減

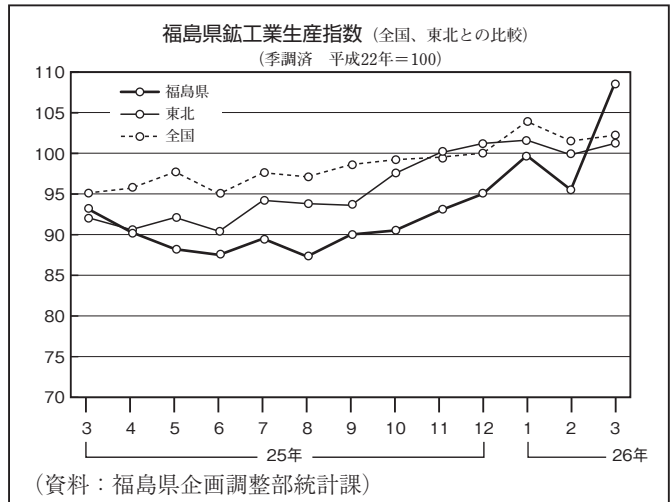
4月の県内新設住宅着工戸数は、927戸（前年同月比△19.0%）と6ヵ月ぶりで前年を下回った。主な利用関係別にみると、「分譲」が65戸（同+12.1%）と4ヵ月ぶりで前年を上回ったものの、「持家」が548戸（同△8.7%）と2ヵ月連続、「貸家」が310戸（同△36.1%）と5ヵ月ぶりでそれぞれ前年を下回った。



生産活動

鉱工業生産指数：7ヵ月連続で前年比増

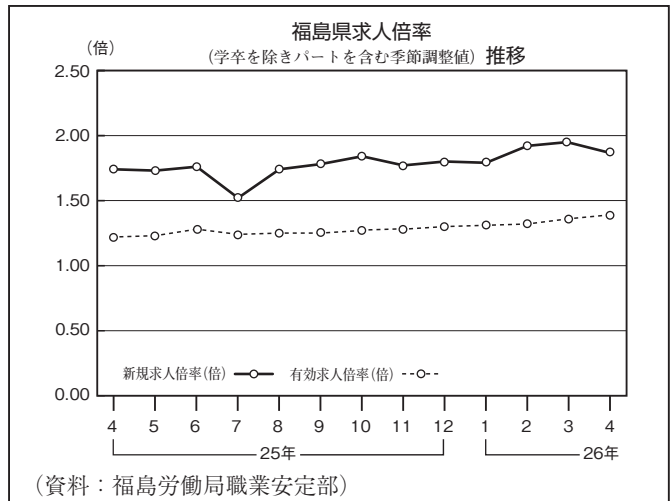
3月の鉱工業生産指数は、108.6（季節調整値）で前月比+13.7%と2ヵ月ぶりで前月を上回り、原指数が111.3で前年同月比+16.5%と7ヵ月連続で前年を上回った。業種別の季節調整値をみると、「印刷業」（前月比+40.9%）など17業種で上昇したが、「はん用・生産用・業務用機械工業」（同△5.2%）など2業種で下降した。



雇用動向

雇用動向：有効求人倍率は49ヵ月連続前年比増

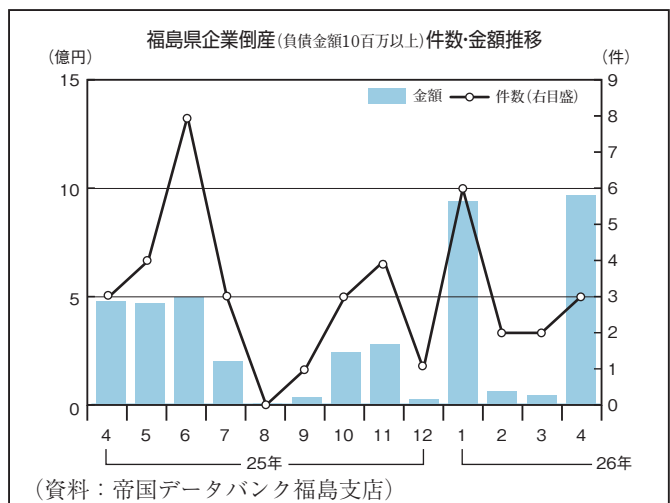
4月の新規求人倍率は、季節調整値が1.87倍（前月比△0.08ポイント）、原数値が1.45倍（前年同月比△0.03ポイント）となった。また、4月の有効求人倍率は、季節調整値が1.39倍（前月比+0.03ポイント）、原数値が1.26倍（前年同月比+0.05ポイント）と49ヵ月連続で前年を上回った。一方、4月の雇用保険受給者実人員は6,683人（前年同月比△11.4%）と7ヵ月連続で前年を下回った。



企業倒産

企業倒産：前年比で負債額が増加

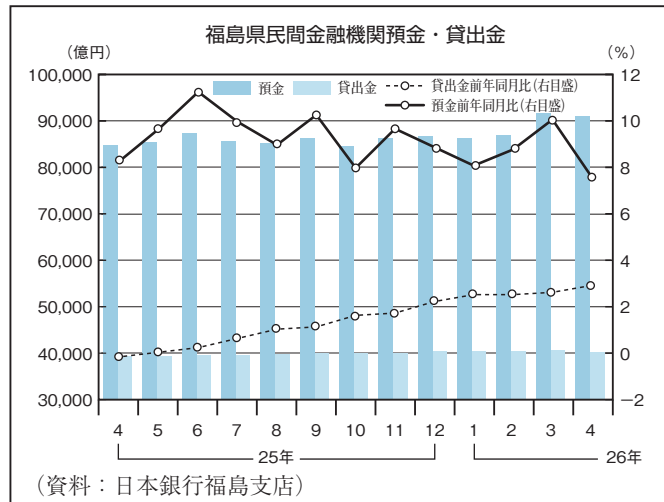
4月の企業倒産（負債金額10百万円以上）は、件数が3件（前年同月比0.0%）、負債総額が9億87百万円（同+106.1%）となり、件数が前年と変わらなかったものの、負債総額が前年を大きく上回った。業種別では、建設業および製造業、運輸・通信業で各1件となった。



金融動向

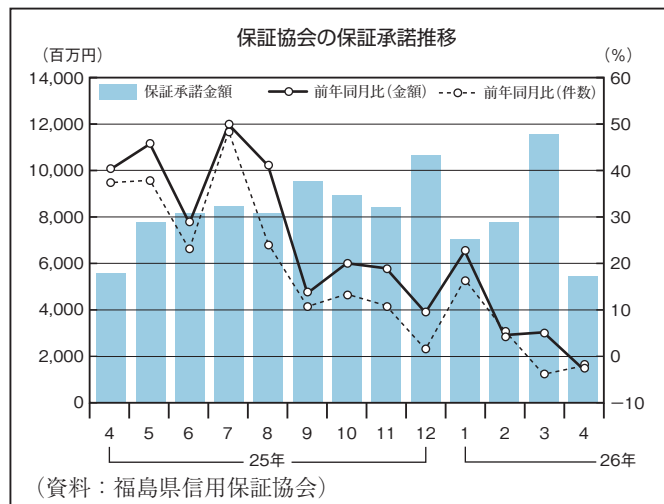
資金需給：預金、貸出金とも前年比増

県内金融機関（全国銀行、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の4月末の預金残高は、9兆1,235億円（前年同月比+7.6%）と86ヵ月連続、貸出金残高は、4兆260億円（同+2.9%）と11ヵ月連続で前年を上回った。



保証協会：保証承諾は件数、金額とも前年比減

4月の保証承諾は、件数が602件（前年同月比△2.3%）、保証金額が54億34百万円（同△2.9%）となった。また、4月末日現在の保証債務残高は、件数48,161件（同△2.4%）、金額4,320億3百万円（同△7.5%）となった。一方、4月中の代位弁済は、件数が10件（同△50.0%）、金額が1億7百万円（同△65.0%）となった。



4. 業種別動向

消費動向

家電量販店 4月の家電量販店の売上高は、パソコンが前年を上回ったものの、消費増税前の駆け込み需要による反動減が窺えたエアコンや冷蔵庫、洗濯機などがいずれも前年を下回ったことから、合計では前年を20%ほど下回った。

ホームセンター 4月のホームセンターの売上高は、エクステリアや日用品などを中心に前年を上回ったことから、合計では前年を10%以上上回った。

旅行 3月の旅行取扱額は、海外旅行が団体向けの不振から前年を下回ったものの、国内旅行が前年を上回ったことから、合計では前年実績を20%以上上回った。

高速道路 4月の県内自動車道出入台数は、合計で4,812,650台（前年同月比△1.7%）と、2ヵ月ぶりで前年を下回った。路線別にみると、常磐自動車道（いわき勿来IC～常磐富岡IC）は1,165,140台（同+7.4%）と2ヵ月連続で前年を上回った。一方、東北自動車道（白河IC～国見IC）は2,604,951台（同△3.4%）、磐越自動車道（磐梯熱海IC～西会津IC）は566,951台（同△9.2%）とともに2ヵ月ぶり、磐越自動車道（いわき三和IC～郡山東IC）は475,608台（同△3.2%）と4ヵ月連続でそれぞれ前年を下回った。

福島空港 4月の福島空港国内定期路線の利用状況は、18,113人（前年同月比+4.6%）と前年を上回った。路線別にみると、札幌便は6,235人（同△4.2%）、大阪便は11,878人（同+9.9%）となった。（国際定期路線は全便運休）

生産活動

化学 4月の食品包装フィルム用合成樹脂は、中国などの海外需要が振るわないものの、国内需要が堅調であることから、前年並みの生産水準を確保している。一方、高機能樹脂は、国内の自動車向けの受注が堅調なことから、前年を上回る生産となっている。

鉄鋼・金属 4月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材が米国などの需要が回復してきたことなどから、前年を10%ほど上回る水準となった。また、半導体向け電子材も、新興国の製品との競合が続いているものの、円安の影響が続いており、前年を25%程度上回る生産を確保した。建機用鋳造品は、中国やオーストラリアを中心に海外からの受注が減少したことから、合計で前年を40%以上下回る生産となった。陸船用バルブは、需要の低迷と中国などの低価格品との競合が続いており、前年を15%以上下回る生産となった。

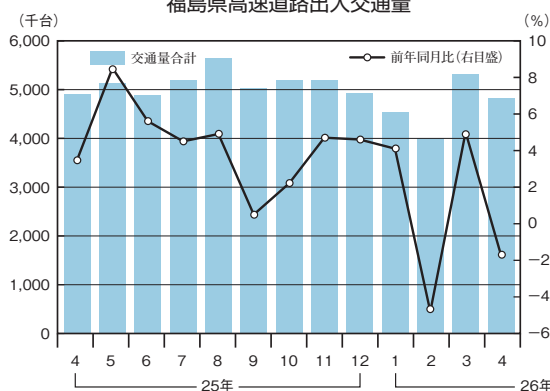
輸送用機械 4月の鋳造品は、トラック向けがタイの需要に不透明感が始めていることなどから、合計では前年を5%程度下回る生産となった。また、オイルシールは、国内の受注に消費増税による反動減がみられたものの、東南アジアを中心に輸出が増加したことから、前年を5%ほど上回る生産となった。

電気機械 4月の電気機械は、誘導炉の生産が前年を上回ったものの、配電盤および変圧器、モーターなどが、いずれも前年比で減産となったことから、合計では前年を35%以上下回る生産となった。

情報通信機械 4月の情報通信機械は、マイクロ波通信機器などの無線通信機器の生産が前年とほぼ同水準となったものの、国内向けモバイル基地局の生産が堅調だったことなどから、合計では前年を40%以上上回る生産となった。

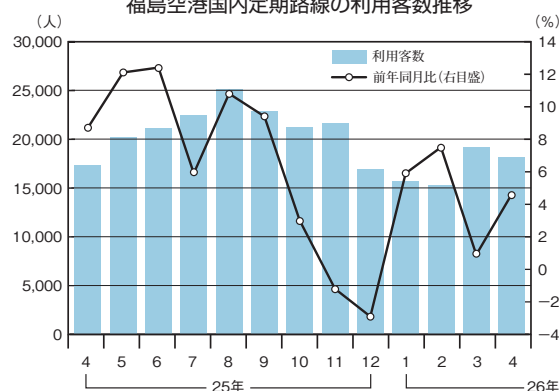
電子部品・デバイス 4月のLSI（大規模集積回路）の生産は、半導体の需要に不透明感が続いており、前年を50%ほど下回った。

福島県高速道路出入交通量



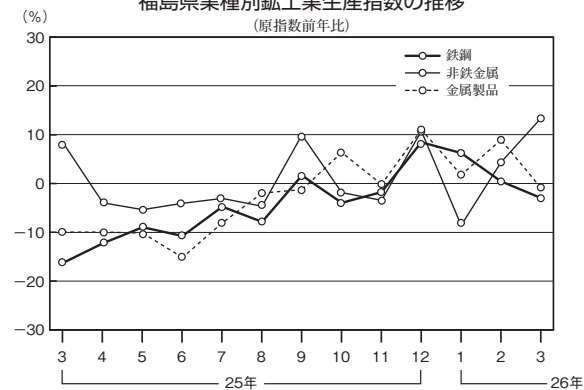
(資料：東日本高速道路㈱東北支社)

福島空港国内定期路線の利用客数推移



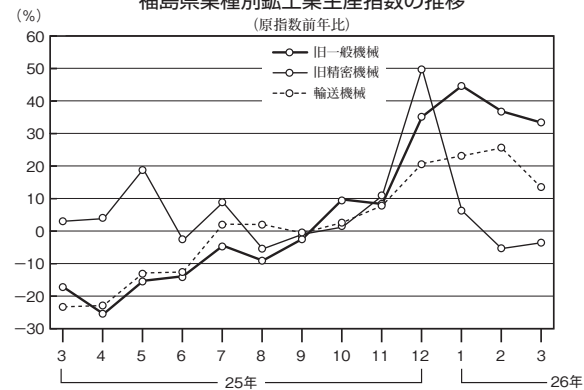
(資料：福島県商工労働部空港交流課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計課)

精密機械 4月の医療用内視鏡は、欧米向け高付加価値製品および国内向け新製品の生産が堅調なことから、合計では前年を15%程度上回る生産水準を確保した。また、デジタル一眼レフカメラ用レンズは、海外からの受注が増加しており、前年を20%以上上回る生産となった。

紙・紙加工品 4月の製紙は、消費増税前の駆け込み需要による反動減がほとんどみられず、感熱紙などの増産が続いており、合計では前年を10%ほど上回る生産となった。

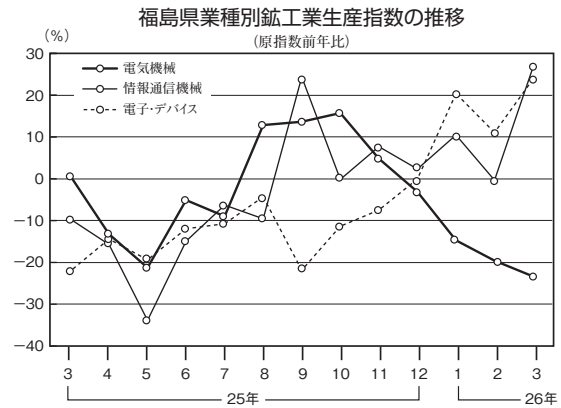
窯業・土石 4月の生コンクリート出荷量は、全体で148,924m³（前年同月比+1.4%）と2ヵ月連続で前年を上回った。民需・官公需別にみると、官公需は県北と会津以外の4地区が前年を下回り、合計で同△14.0%となった。一方、民需は県中以外の5地区が前年を上回ったことから、合計で同+21.3%となった。

清酒 4月の清酒移出数量は、1,036kl（前年同月比△18.5%）と2ヵ月ぶりで前年を下回った。酒類別では、特定名称酒（吟醸酒・純米酒・本醸造酒）が471kl（同△14.5%）、一般酒（特定名称酒以外の酒）が566kl（同△21.6%）と、ともに2ヵ月ぶりで前年を下回った。

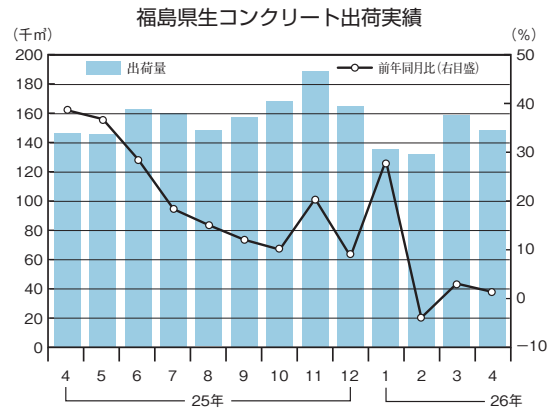
化合繊維物 4月の化合繊維物は、単価の高い製品にシフトしている影響などから、売上高では前年を45%以上上回った。

ニット 4月のニットは、秋冬物サンプルの生産が中心となり、前年とほぼ同水準の生産を確保した。

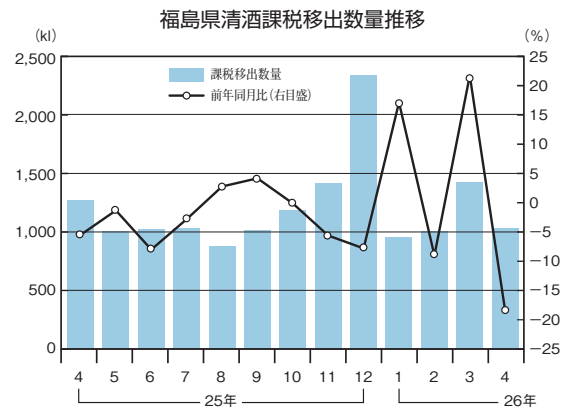
大口電力 4月の大口電力販売量は、465百万kw/h（前年同月比+5.4%）と7ヵ月連続で前年を上回った。大口主要販売先を業種別にみると、「非鉄金属」で101百万kw/h（前年同月比+13.2%）、「電気機械」で71百万kw/h（同0.0%）、「輸送用機械」で51百万kw/h（同+1.9%）、「化学」で51百万kw/h（同+25.9%）、「一般機械」で24百万kw/h（同+3.2%）、「紙・パルプ」で17百万kw/h（同△22.7%）となっている。



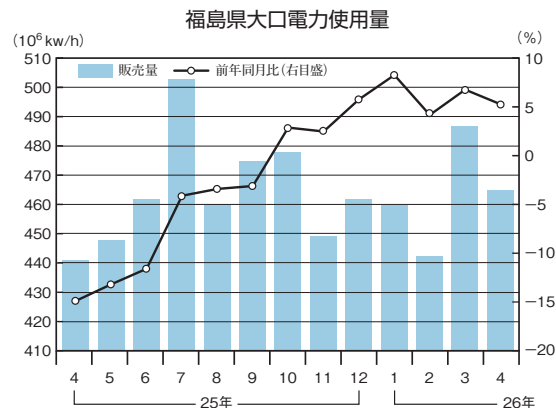
(資料：福島県企画調整部統計課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)



(資料：福島県酒造組合)



(資料：東北電力福島支店)